

図解 川はどこへいった?

かつては水の都といわれるくらい、水路が多かった中央区。ほとんどが埋め立てられ、今となってはその面影もない。変わっていったようすを見てみよう。

江戸初期 1630(寛永7年)



「武州豊嶋郡江戸庄図」

江戸初期の地形。これが江戸の中期になると、大きく変わってくる。町名がつけられ、区画も整備される(→p.145)。

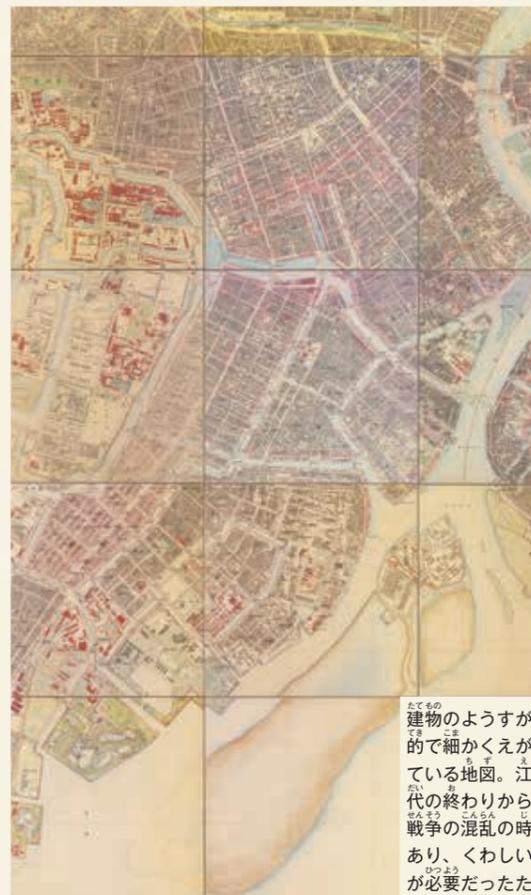
江戸と明治を比べると、地形も変わったね。



昭和初期でも川はまだあったんだね。

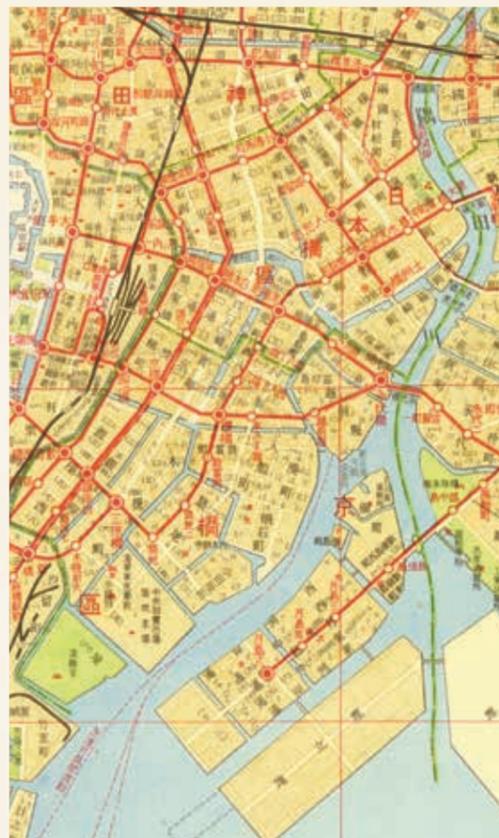


明治 1884(明治17年)



「参謀本部陸軍測量局東京五千分一図」
(国際日本文化研究センター所蔵)

建物のようすが立体的で細かくえがかれている地図。江戸時代の終わりから西南戦争の混乱の時代があり、くわしい地図が必要だったためつくられた。



昭和 1935(昭和10年)

現在の地形に近くなったが、ここからさらに大規模な水路の埋め立てが行われた。第二次大戦後(→p.123)とオリンピック開催前(→p.128)の2回だ。

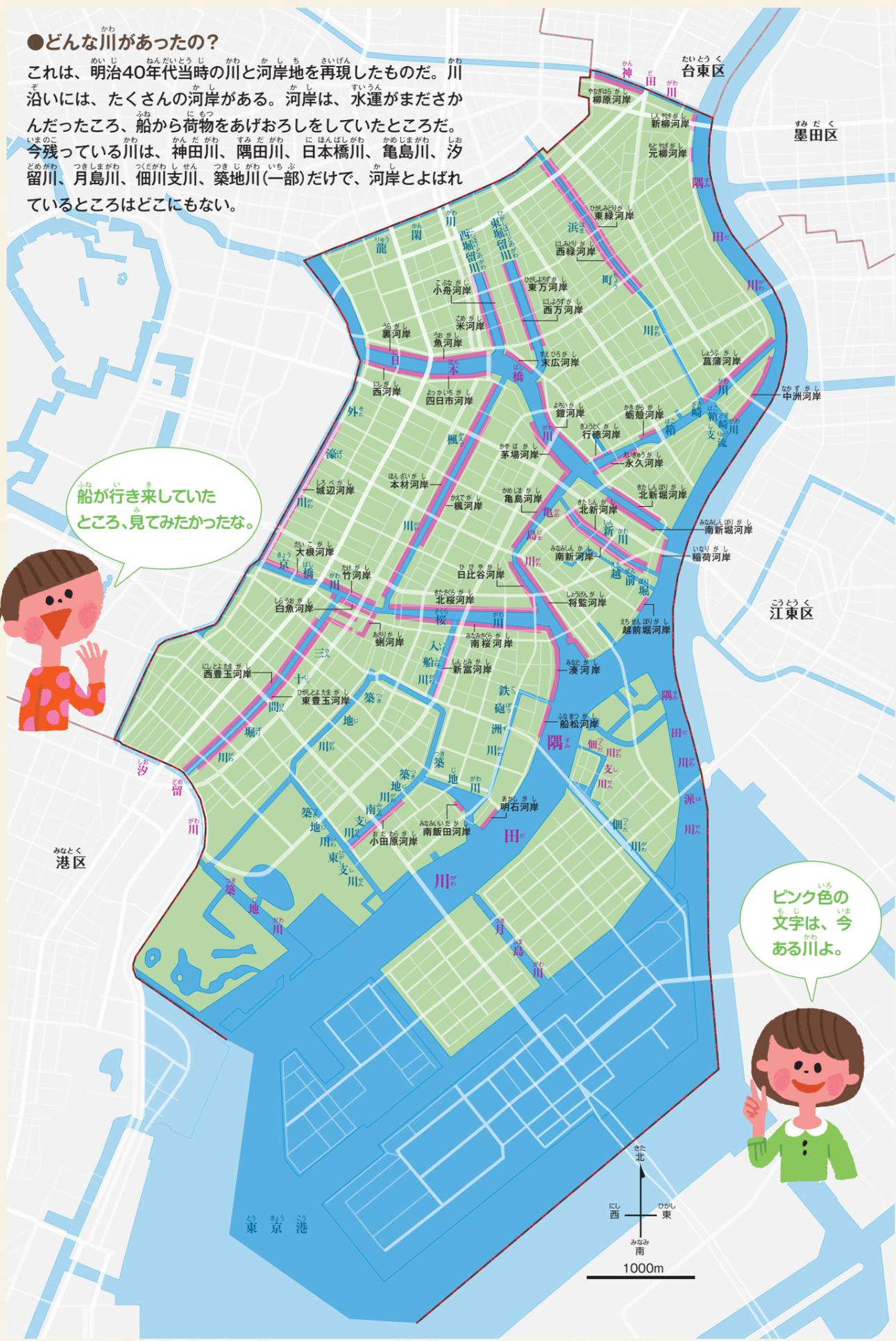
「模範新大東京全図」
(国際日本文化研究センター所蔵)

●どんな川があったの?

これは、明治40年代当時の川と河岸地を再現したものだ。川沿いには、たくさんの河岸がある。河岸は、水運がまださかんだったころ、船から荷物をあげおろしをしていたところだ。今残っている川は、神田川、隅田川、日本橋川、亀島川、汐留川、月島川、佃川支川、築地川(一部)だけで、河岸とよばれているところはどこにもない。



港区



ピンク色の文字は、今ある川よ。

